

## ＜段ボールリサイクル協議会の取組み＞

段ボールリサイクル協議会は、容器包装リサイクル法の施行を受けて、段ボールの製造・利用事業者及び使用済み段ボールの回収・流通・再商品化事業者の業界団体が、段ボールの円滑なリサイクルを推進することにより循環型社会の構築に資するために設立した組織です。

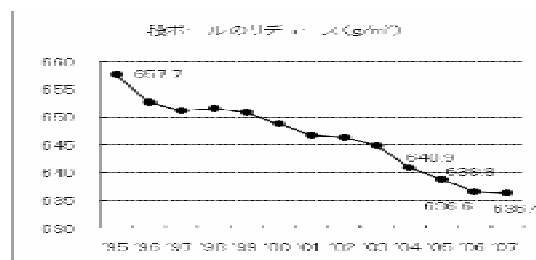
### 段ボールに関する自主行動計画の2007年度フォローアップ結果

項目	2010年度目標	2007年度取り組み実績
<b>リデュース</b>	個々の商品の物流条件に応じて設計されるが、事業者間の合理化努力により、1㎡あたりの重量を2004年実績比で1%軽量化する。	2004年実績比で0.7%軽量化された。 (2004年 640.9 g/㎡ 2007年 636.4 g/㎡)
<b>リサイクル</b>	『回収率』 既存のリサイクル機構を活用し、回収率90%以上を維持する。 『リサイクル容易性向上』 たたみ易い段ボールの開発・普及に努める。	『回収率』 計算方法の改訂を行い、回収率95.5% (旧回収率100.9%)となった。 『リサイクル容易性向上』 たたみ易い段ボールの具体例を調査し、データ整理を行った。(2008年9月HP掲載)
<b>識別表示の推進</b>	識別表示実施率90%を目指す。 ・容り法の対象外も含めて、全ての段ボールに段ボールのリサイクルマークの表示を促進する。	識別表示(リサイクルマーク)表示実施率は、家庭から排出された段ボールの調査では53.2%であった。 また、新たに段ボール製造事業所(約270)を対象にしたリサイクルマーク印刷率の調査も開始した。(2007年10月調査 28.4%)

### **リデュース** 目標 1㎡あたりの重量を2004年実績比で1%軽量化する。

段ボールは、梱包される商品の物流条件(中身容器の強度、積上げ段数、輸送方法・距離など)により個々に設計されます。段ボール製造・利用事業者間の合理化努力による使用材料の薄物化等により、原単位(g/㎡)は1990年の664.1g/㎡から2004年には640.9g/㎡となり、15年間で3.5%削減されています。自主行動計画としては、これを2010年までにさらに1%軽量化するという目標としました。

2007年度実績原単位(g/㎡)は636.4g/㎡で、2004年度比0.7%軽量化されました。段ボールの需要分野の中で大きなウエイトを占めるビール・飲料用段ボールは、中身容器が缶やPETボトルであり、中身容器の軽量化は段ボール箱の強度アップが必要になる、という難しさはありますが、段ボール製造・利用事業者間の合理化努力をさらに推し進め、目標達成に努力して参ります。

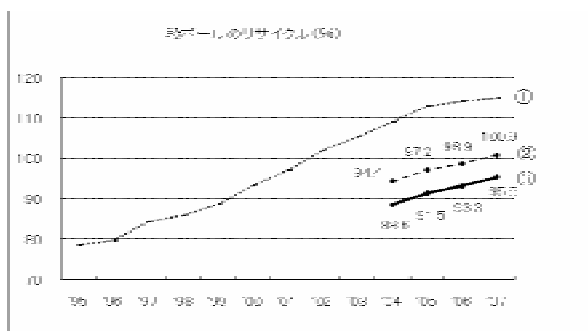


## リサイクル 目標 回収率 90%以上を維持する。

使用済み段ボール（段ボール古紙）は、完備されたりサイクル機構により、段ボール原紙の主原料としてリサイクルされています。回収率はすでに非常に高いレベルであり、自主行動計画としてはこの高いレベルを維持するという意味で90%以上を維持するという目標としました。

従来の回収率計算方法で2007年実績が100%を超えたため（下表）計算方法の見直しを行い（下表）2007年度実績は新回収率で95.5%と2006年の新回収率93.3%からさらにアップしました。今後この完備されたりサイクル機構を崩すことなく回収率の維持・向上を計って参ります。

また、消費者の排出を容易にするための、たたみ易い段ボールの開発・普及につきましては、たたみ易い段ボールの具体例を調査し、ホームページ掲載に向けたデータ整理を行いました。（2008年9月に段ボールの3R改善事例10例をホームページに掲載）



- : [A]段ボール古紙(製紙受入+輸出-輸入)/[B]段ボール原紙消費
- : [A]段ボール古紙(製紙受入+輸出-輸入)/([B]段ボール原紙消費+[C]輸出入商品用)
- : [A]に含まれる段ボール以外の古紙及び段ボールに付着した糊の重量を除いて計算

## 識別表示の推進 目標 識別表示実施率 90%以上を目指す。

消費者の分別排出を容易にするために、容器包装リサイクル法の対象とされる段ボールに限定せず、商品の輸送・保管に利用されるものも含めて、全ての段ボールにリサイクルマークの表示を促進し、実施率90%を目指します。

2007年度の表示実施率は、家庭から排出された段ボールの調査では53.2%（前年50.6%）でありました。目標は家庭から排出される段ボールだけではなく、全ての段ボールに対する表示率90%であり、2007年10月から新たに段ボール製造事業所（約270）を対象にした段ボールのリサイクルマークの印刷率（リサイクルマークが印刷されたケース数/総印刷ケース数）の調査を開始しました。

調査結果は、2007年10月調査で28.4%でしたが、その後の推進により直近の2008年10月調査では53.9%と上昇しており、確実に印刷率は増えて来ていますが、目標の90%にはまだまだ低い率であります。

段ボールに新たにリサイクルマークを印刷するには、個々の段ボール箱に対して段ボールメーカーのユーザーである利用事業者の承諾が必要となります。従って、一挙に印刷率を向上させることは難しく、推進活動により徐々に上げていくこととなりますが、今後さらに推進を継続し、目標達成に努力して参ります。

